

金剛寶戒寺便

<https://www.honkaiji.jp>

令和七年三月一日発行 第二三号

檀信徒の皆様こんにちは。寒さ厳しい季節が過ぎようとしています。毎朝晩六時に鐘を叩いていると、少しづつ日が長くなっていることに気づきます。境内の木々も小さな芽をふくらまし、春の訪れを待っています。

最近、私たちが食べる果物や野菜は昔と比べて甘くて美味しくなったと思いませんか？これは、長い年月をかけた品種改良の成果です。実は、バナナに種がないのも、人間が食べやすいように改良された結果だそうです。

さて、先日の法話会では、無農薬・無肥料でリンゴを育てた木村秋則さんについてお話しをしました。NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」でも紹介されたので、ご存じの方もいるかもしれません。

リンゴを育てるには、一般的に農薬や化学肥料が欠かせません。通常、リンゴは育てる六か月の間に十三回も農薬を散布する必要があるそうです。農薬のおかげで病気や害虫から守られ、化学肥料のお陰で大きく甘い実をつけることができます。現代の農業には農薬や肥料、除草剤が欠かせません。

木村さんは元々、農薬をたくさん使ったりリンゴを栽培し、農協から表彰されるほどの農家でした。しかし、奥様が農薬に弱い体質だったことや、福岡正信さんの本との出会いを

きっかけに、農薬を使わない方法を模索し始めました。

最初は一部の畑で試しましたが、やがてすべてのリンゴ畑を無農薬・無肥料栽培に切り替えました。その結果、八年間ほとんど収入がない状態になり、絶望のあまり自ら命を絶とうと山へ向かいました。

しかし、その山で彼が見たのは、農薬を使わなくても元気に育っているドンダリの木々でした。その光景にヒントを得て、農薬に代わる素材を探す事や、害虫の駆除を重視する視点から、土や微生物など自然の力を活かす栽培方法へと転換し、ついに無農薬・無肥料でリンゴを育てることに成功したのです。

私はこの本を読んだとき、まるで仏教書を読んでいるように感じました。お大師様の言葉に「六大無碍（ろくだいむげ）にして常に瑜伽（ゆが）なり」（世の中のすべてのものはつながっている）という教えがあります。

木村さんも最初は害虫の駆除ばかり考えていましたが、最終的には「リンゴの木を支えているのは土や微生物など、すべての自然とのつながりだ」と気づきました。これは、仏教でいう「縁（えん）」や「協生（きょうじゆうせい）」の考え方に通じるものだと思います。

農業の世界でも、私たちの日常でも「すべてがつながっている」と気が付くと、駆除していたものが必ずしも、害を与えるものではないと思えるようになるかもしれません。

法話の会

日時 四月八日（火曜日）十一時より

演題 「死について考える」

写経の会

日時 四月十九日（土曜日）十四時より

会費 千円

会場 金剛宝戒寺 檀信徒会館

今年から始めた写経の会は筆ペンを使い、高野山から取り寄せた写経用紙の薄字をなぞってお写経をしています。同じ用紙を使っても、それぞれに個性がでます。しかし大切なことは「競ったり、比べたりしない」ことです。香りの良いお線香と身を清める塗香を手にして普段とは違う時間を体験して頂けたらと思っています。二月の写経の会ではお檀家様で作って下さったシフォンケーキとコーヒールをお出ししました。ふわふわの優しいお味のケーキは大好評で、皆さんぺろりと食べておられました。

四月八日はお釈迦様のお誕生日「お花祭り」ですので講習会は十一時から行います。お間違いないようお願い致します。

草木国土悉皆成仏（草や木、大地までもが仏の教えを宿し、成仏する）との教えがあります。「協生農法」を知り目から鱗が落ちる思いです。草花が生える季節になりますので、今年は私も少し栽培をしてみようと胸をふくらませていきます。